

Title	企業が競争劣位に陥る要因・条件及び競争劣位にある企業が業績改善を実現するための要因・条件について
Sub Title	
Author	西村, 聡(Nishimura, Satoshi) 岡田, 正大
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2003
Jtitle	
Abstract	
Notes	不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002003-1894">http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002003-1894</a>

## 論文要旨

所属ゼミ	岡田 研究会	学籍番号	80228692	氏名	西村 聡
(論文題名)					
企業が競争劣位に陥る要因・条件及び競争劣位にある企業が業績改善を実現するための要因・条件について					
(内容の要旨)					
<p>多くの日本企業が優れたリソースを保有するにもかかわらず、それらを活用しないまま業績不振に、そして競争劣位に陥っていると推察される。まさに「もったいない」状態である。</p> <p>何故優れたリソースを保有する企業が競争劣位に陥るのだろうか？優れたリソースを保有するにもかかわらず競争劣位に陥った企業が業績を回復させるには、どうすればよいのだろうか？</p> <p>優れたリソースを保有するにもかかわらず、そのリソースを活用しきれないまま競争劣位に陥った企業が、競争劣位に陥る要因・条件と競争劣位からの業績改善実現の要因・条件を把握し、さらなる業績悪化の防止、あるいは業績改善の実現の対策の一助となることが本研究の目的である。</p> <p>本論文では、企業が競争劣位に陥る要因・条件に関する仮説を、個人的能力の欠如、実質的議論の欠如、及び戦略執行徹底力の欠如という分類に従い構築した。さらに、それらの分類の中では実質的議論の欠如に関する要因・条件が企業の競争劣位に最も大きな影響力を有するという仮説を構築した。</p> <p>企業が業績改善を実現する要因・条件に関する仮説として、劣位の要因・条件を解決・除去することによって業績改善が実現するという仮説を構築した。すなわち、個人的能力の改善、実質的議論の改善、及び戦略執行徹底力の改善という分類で仮説を構築した。加えて、業績改善については要員の交代という新たな分類を設け、それに関する仮説も構築した。以上の分類の中では、実質的議論の改善に関する要因・条件が業績改善に最も大きな影響力を有するという仮説も構築した。</p> <p>仮説検証の方法としては、企業へのアンケート調査を採用した。</p> <p>アンケート対象企業は、過去10年間で、実際に業界内で競争劣位に陥った状態から劇的な業績改善を実現した東証一部・二部上場企業とし、54社にアンケートを送付した結果、32社から回答を得た。</p> <p>アンケートの回答を分析した結果、個人的能力、実質的議論、戦略執行徹底力、及び要員の交代に関するそれぞれの詳細仮説(検証用作業仮説)の各項目を実際に競争劣位から業績改善を実現した企業がどのように認識しているかが明らかになり、妥当性の高さを確認できた。実質的議論に関する要因・条件の仮説項目が、競争劣位及び業績改善のいずれに関しても最も大きな影響力を有する要因・条件であるという仮説の妥当性は説明されず、企業は戦略執行徹底力に関する項目を、競争劣位及び業績改善のいずれにおいても最も影響力の大きい要因・条件と考えていることが明らかになった。また、業績改善の要因・条件に関して、要員の交代に関する仮説の各項目を企業は重要視していないことがわかった。</p> <p>競争劣位及び業績改善の要因・条件に関するそれぞれのアンケートの回答をマッピングすることによって、実際に競争劣位の状況から業績改善を実現した企業が、どの要因・条件を問題点として捉え、どれを解決・除去して業績改善を実現したと認識しているかということを明らかにした。</p> <p>以上の研究結果は、一般実務家に有効な示唆を与えることが出来ると考える。</p> <p>また、この研究結果は、競争劣位に陥っている企業のみならず、競争均衡、あるいは競争優位の状態にある企業が将来的に競争劣位に陥ることを防ぎ、さらなる業績改善を達成する対策の一助にもつながると考える。</p>					